

生活支援コーディネーターの役割・活動について

令和8年7月10日（金）花見川区第1回支え合いのまち推進協議会

- 1. 数字からみる介護保険**
- 2. 生活支援コーディネーター（SC）について**
- 3. 自立支援の視点でみた地域**
- 4. 活動事例集について**

数字から見る介護保険①

	高齢者一人を支える人数のイメージ	
2025年	約1.9人で支える	
2040年	約1.5人で支える	
2055年	約1.3人支える	

出典・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」
・総務省統計局「人口推計」

数字から見る介護保険②

千葉市の令和5年度（2023年度）の要介護別の割合

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
割合	約15.8%	約10.5%	約26.0%	約14.2%	約12.8%	約12.2%	約8.5%
イメージ	軽度 52.6%			中等度 27%		重度 20.7%	

厚生労働省「介護保険事業状況報告」をもとに、千葉市「第5期千葉市地域福祉計画」（令和4年度末データ）より作成



軽度者に多い困りごと

掃除
買物
外出
ゴミ出し
話し相手

誰に頼みたい？
誰じゃないとできない？
誰ができる？



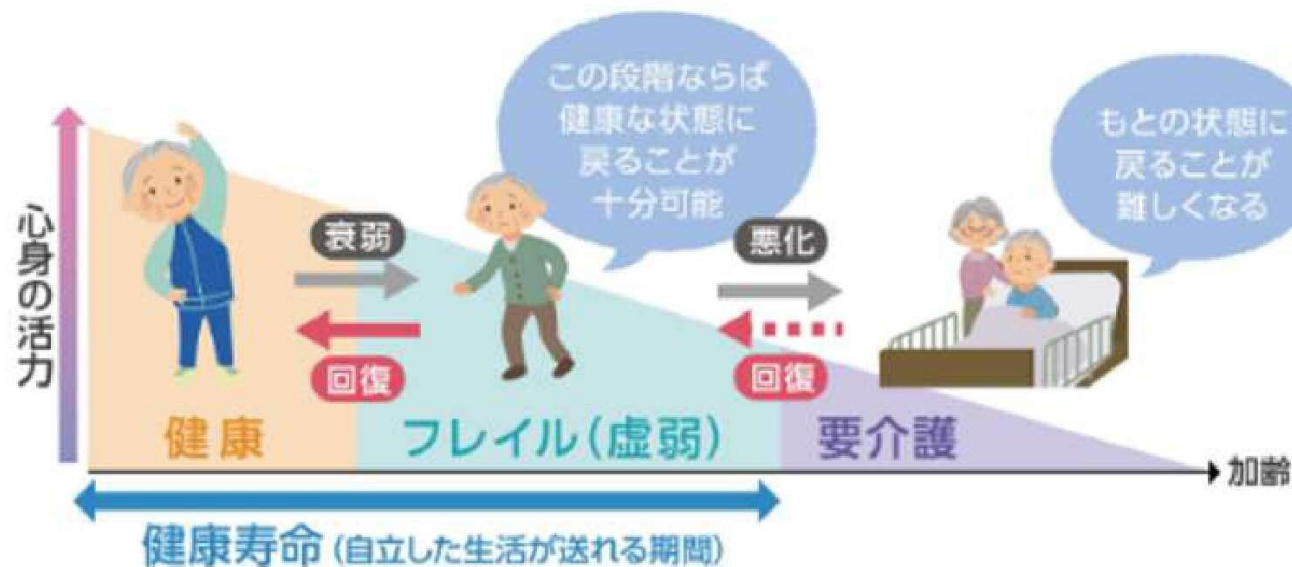
重度者に必要な支援

排泄介助
移乗・移動
食事介助
認知症ケア
医療的ケア

※フレイルとは（千葉市ホームページより）

年齢を重ねて、体や心のはたらき、社会的なつながりが弱くなった状態を「フレイル」と言い、健康な状態と要介護状態（生活を送るうえで支援が必要な状態）の中間の状態を指します。

フレイルは早期に適切な行動をとることで健康な状態に戻ることができ、
ここで対策をすることがポイントです。



2. 千葉市生活支援コーディネーター（SC）とは

①根拠法等：○**介護保険法** ○地域支援事業実施要綱
所管：千葉市地域包括ケア推進課

②配置（平成27年度から配置、令和3年度から第2層SC全域配置開始）
第1層生活支援コーディネーター 各区に1人
第2層生活支援コーディネーター 各あんしんケアセンターに1人
（未設置の場合は第1層が担います）

③インフォーマルな資源の情報を収集し発信
千葉市独自の地域資源WEB公表システム
「千葉市生活支援サイト」を用いて情報を管理しています



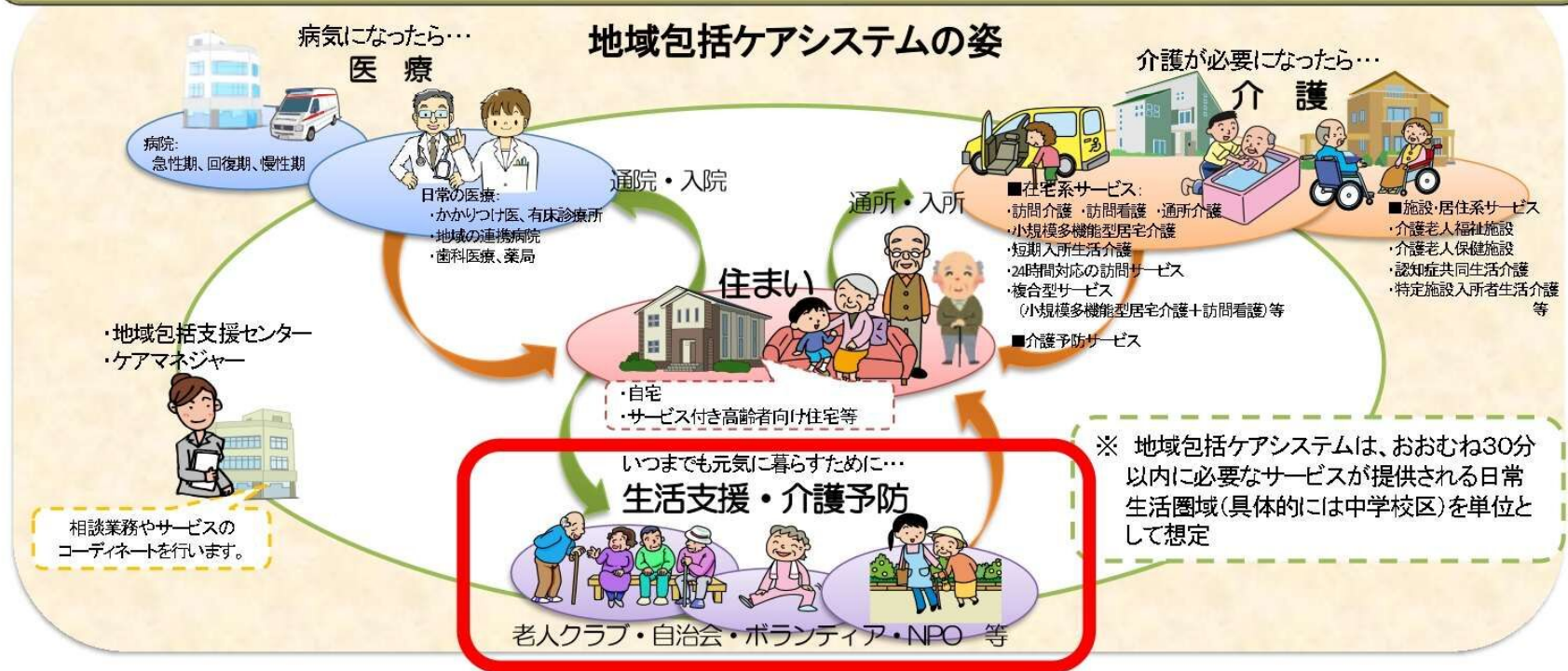
千葉市ホームページにバナーがあります



<https://chiiki-kaigo.casio.jp/chiba>

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



生活支援体制整備事業の目的

高齢者の尊厳と自立した日常生活を**地域でささえていく**ためには、総合事業として実施するサービス・活動事業及び一般介護予防事業並びに地域住民を含めた多様な主体による高齢者の自立した生活や介護予防に資する総合事業に**該当しない多様な活動又は事業**について、事業間での**連動を図りながら**実施することが重要である。

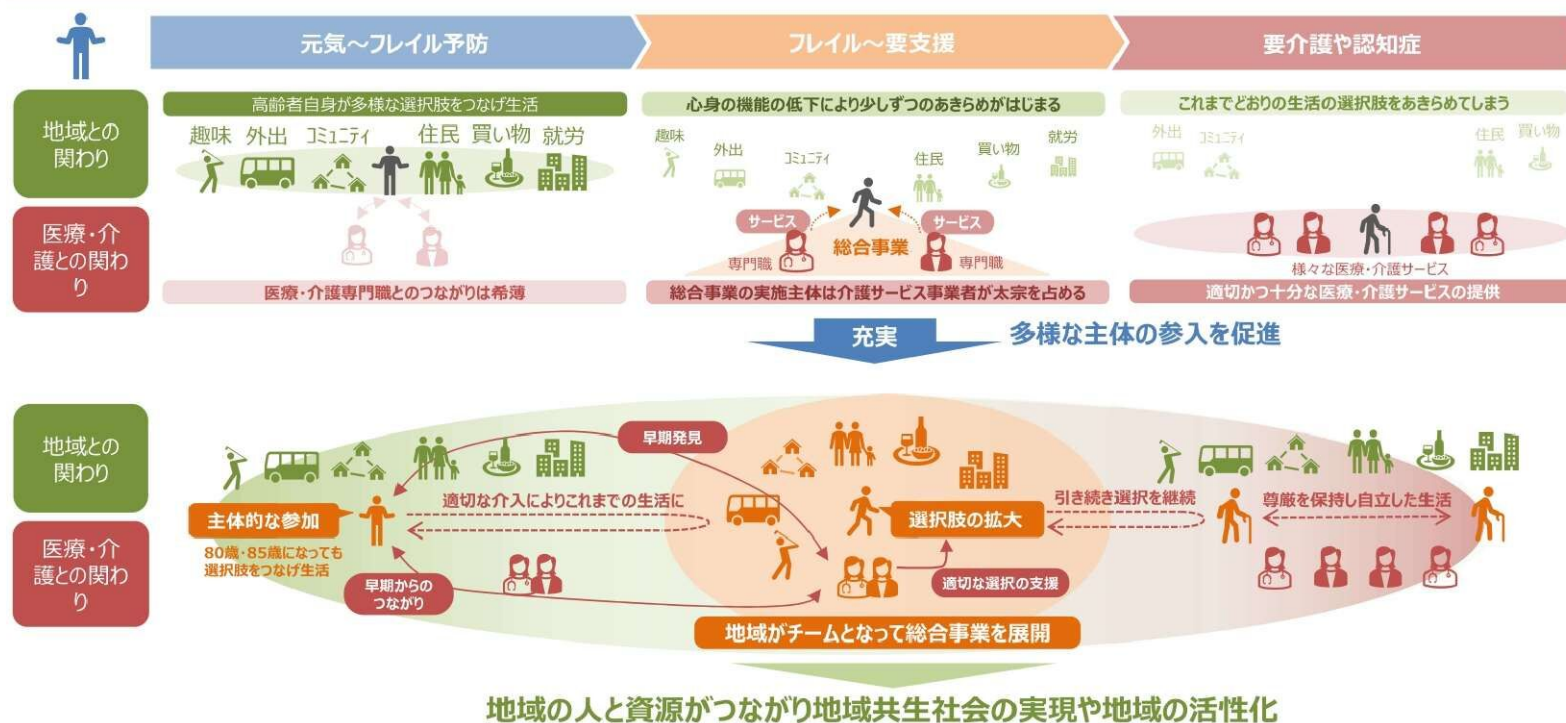
このため、市町村が中心となって、**元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として参加する**住民主体の活動団体、地域運営組織、NPO法人、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協働組合、民間企業、シルバー人材センター、介護サービス施設・事業所、老人クラブ、家政婦（夫）紹介所、商工会、民生委員等の**多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進していく**ことを目的としている。

（地域支援事業実施要綱（令和6年8月改正）

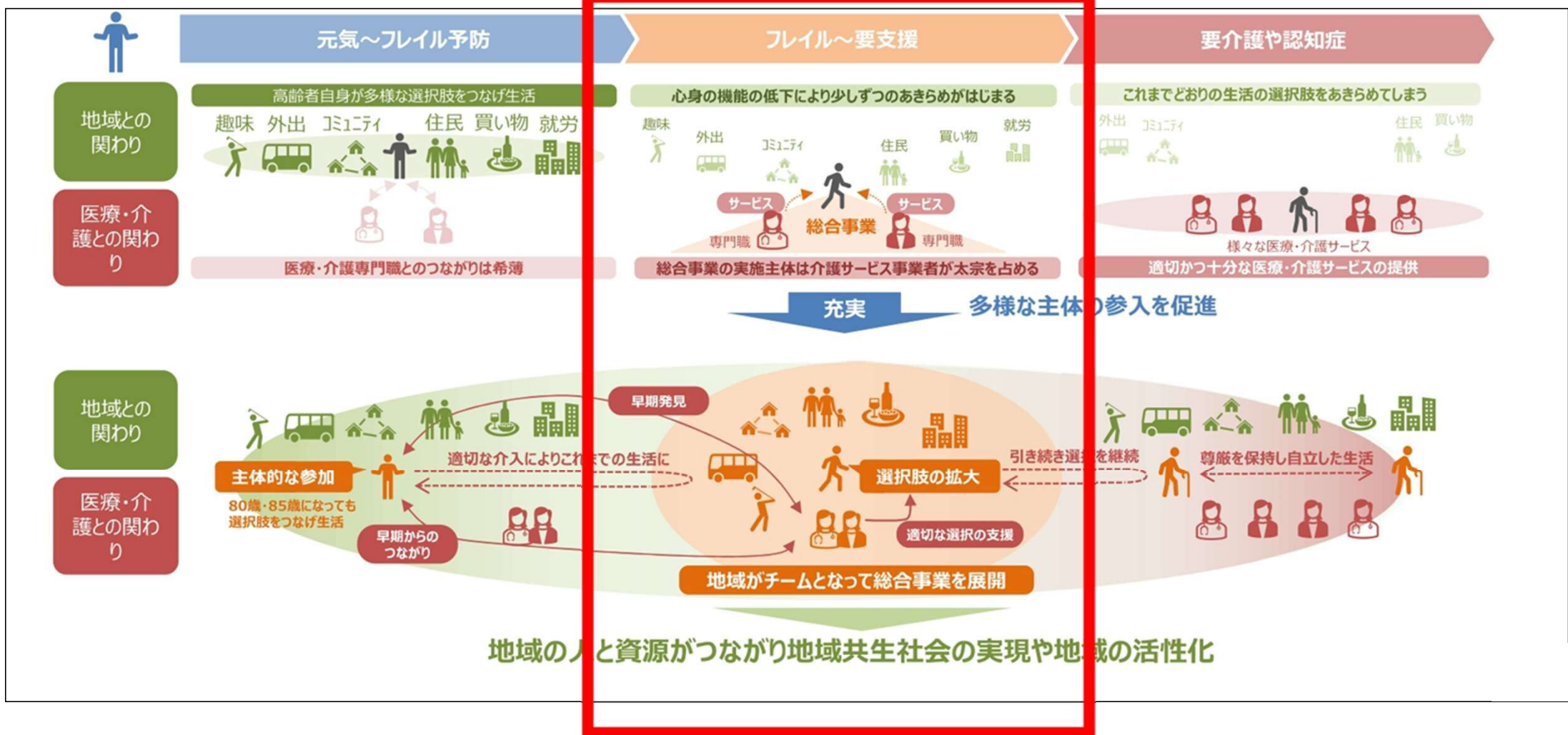
介護予防・日常生活支援総合事業の充実に向けた検討会における議論の中間整理（概要）②

高齢者や多様な主体の参画を通じた地域共生社会の実現・地域の活性化

- 高齢者の地域での生活は、医療・介護専門職との関わりのみならず、地域の住民や産業との関わりの中で成立するもの。また、高齢者自身も多様な主体の一員となり、地域社会は形作られている。
- 総合事業の充実とは、こうした地域のつながりの中で、地域住民の主体的な活動や地域の多様な主体の参入を促進し、医療・介護の専門職がそこに関わり合いながら、**高齢者自身が適切に活動を選択できる**ようにするものである。
- 総合事業の充実を通じ、高齢者が元気づちから地域社会や医療・介護専門職とつながり、そのつながりのもとで社会活動を続け、介護が必要となっても必要な支援を受けながら、住民一人ひとりが自分らしく暮らし続けられる「地域共生社会」の実現を目指していく。



参考：厚生労働省令和6年度地域支援事業実施要綱等改正の概要



ここの充実が
生活の選択肢を増やす

3. 自立支援から見る地域～視点を少し変えてみる～

ゴミ出し



- ・ゴミ集積所まで歩く機会
- ・人と会う機会
- ・日時を確認する機会

買物



- ・スーパーまで歩く機会
- ・季節を感じる機会
- ・自分で決める機会

掃除



- ・自宅で運動する機会
- ・判断をする機会
(物の場所)
(汚れている場所)
(掃除のタイミング)

**支え合い
助け合い活動**



自立支援

生きがい・役割をもち
いきいきと暮らす



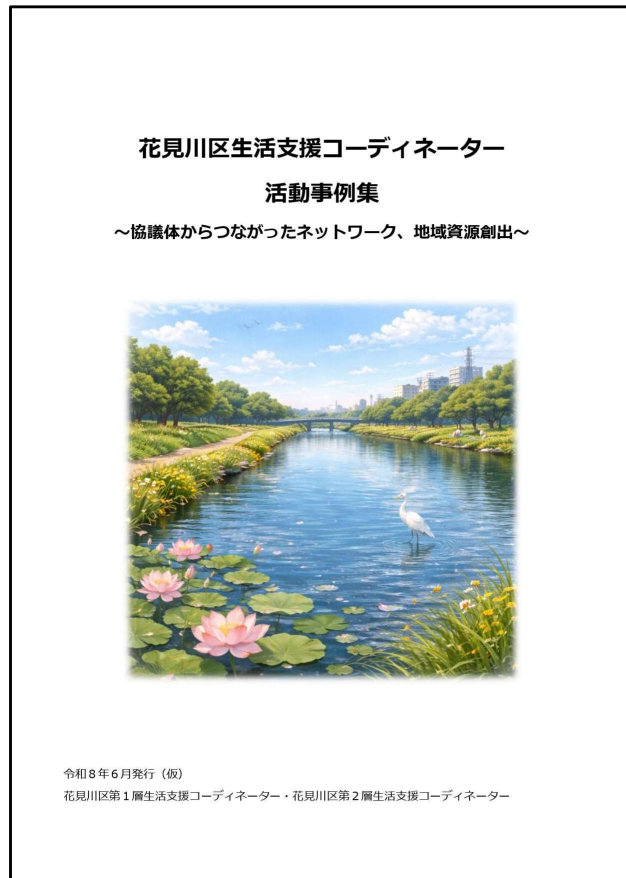
**専門職の支援が
必要な人に届く**



選択肢がある地域、望むくらしの実現へ



4. 活動事例集について



作成の目的

- ①生活支援コーディネーター業務の理解促進、活動の発信
 - ・活動を通じて得られた効果を発信する
 - ・新たなネットワーク構築を推進する
- ②生活支援体制整備事業の推進
 - ・福祉団体や民間企業による地域貢献・地域交流が貴重な地域資源であることについて理解促進を図り、地域における多様な主体（団体）の参画による生活支援体制整備の推進につなげるため

事例内容

- ①資源開発・活用、ネットワーク構築の事例
- ②個別支援ニーズと取組のマッチング

配布・閲覧対象

SCが連携する多様な主体（団体）、行政、あんしんケアセンター、社会福祉協議会

地域資源開発・活用 (P.3)

地域には福祉施設や民間企業など多様な主体（団体）があり、これらは高齢者を支える貴重な「地域資源」のひとつです。

生活支援コーディネーターは、こうした多様な主体（団体）と連携し、その強みや専門性を活かした新たな交流の場づくりを進めています。

福祉施設や民間企業による地域交流の取組を、生活支援コーディネーターが地域資源としてつなぎ合わせることで生まれた資源、ネットワークの効果について具体的な事例を紹介します。

P.6ご覧ください

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和7年6月	支援種別	地域資源開発・活用
図 域	さつきが丘園域		
施設種別	認知症対応型グループホーム		
施設名称	ゆかりの里		

概 要

【テーマ】

休憩場所の提供～ベンチの設置～

【経緯】

令和7年4月 地域密着型サービス運営推進会議にて、「施設内で地域の高齢者が集うサロンや認知症カフェを始めたい。」との意向を把握した。該当地区は高齢者の交流の場やマッチングできる地域資源が不足していること、認知症カフェも不足していることから、新たな地域資源の開発に向けて調整した。

【内容・結果】

施設側は地域交流に熱心である一方、施設のマンパワーが足りないこと、認知症カフェの創出前に普及啓発の段階を踏みたいことから、まずは現在の施設が持つ資源を活用できないか提案し、経過に面した施設の敷地内に入居者の家族が作った木製のベンチを設置した。

【効果】

（施設）

- ① 施設が持つ資源（入居者の家族が作った木製のベンチ）を活かし、気軽に地域交流を始められた。
- ② 草むしりが好きな入居者のために家族が作ったベンチを地域に貢献できた。
- ③ ベンチの設置をきっかけに花壇の整備など、さらなる地域交流の展開が考えられる。

（地域住民）

- ① 散歩途中に休憩場所ができた。

（生活支援コーディネーターの思い）

- ① 施設からの相談をきっかけに地域踏査を行い、地域に必要な地域資源を開発できた。
- ② 他園域の活動事例を紹介したことで、地域交流へのハードルが低くなった。
- ③ ベンチを通じて利用者と家族の思いを地域につなげることができた。

【写真・チラシ】



緑道に面した敷地内にベンチを設置



「ちょっと一息」の掲示を設置し案内

本事例集の無断転載・転用・複製はご遠慮ください

マッチング支援(P.16)

マッチング支援とは、支援対象者のかつての趣味や強み、思いなどを地域資源とつなげる取り組みです。

「小さなきっかけ」が、フレイル状態にある方々の活動性を高め、介護予防や社会参加への第一歩となります。

生活支援体制整備事業が目指す、高齢者の生活機能の維持・向上や地域の支え合いの仕組みづくりがどのようなカタチになっているのか、具体的なマッチングの成果をご紹介します。

P.17ご覧ください

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和6年11月	支援種別	マッチング支援
圏域	花見川圏域、さつきが丘圏域、花園圏域、稲毛区圏生		
施設種別	認知症対応型グループホーム、デイサービス、小規模多機能型居宅介護		
施設名称	カーテンコート花見、ちぐさの家、カーテンコート稲毛園生、花見川いきいきプラザ、がっせん！となり組		

概要

【テーマ】

視覚障害がある女性と高齢男性の夫婦の活躍の場～オカリナとギター演奏～

【経緯】

T夫妻は住民主催の通いの場でオカリナとギターの演奏をしていたが、令和6年10月に通いの場が閉鎖した。T妻の視覚障害が進行し、活動機会が減少したこともあり、演奏のやりがいも薄れていた。生活支援コーディネーターはT夫妻の思いを伺い、高齢者施設への楽器演奏ボランティアを提案した。

【内容・結果】

花見川区5施設にて、演奏会の定期開催をした。

(頻度) 月4～5回 (備考) 事前に曲のリクエストを募集する

【効果】

(施設)

- ① 地域住民のボランティアを受け入れることで、地域交流になった。
- ② 入居者の社会参加の機会が増え、毎月の演奏会が楽しみになっている。

(対象者)

- ① 「今やれることを続けようと思った」「新たな曲にチャレンジするようになった」とT夫婦ともに前向きな発言が見られるようになった。
- ② 演奏会の頻度が多くなったことで、健康面に意識が向き、「食事をきちんと食べるようになった」「目薬をきちんと注すようになった」などT妻のセルフケアに変化があった。
- ③ 「参加者に喜んでもらいたい」と視力低下しても演奏ができる楽器「デスクベル」を始めた。

(生活支援コーディネーターの思い)

- ① リクエストに応えられるよう、新しい曲を練習することで、演奏会の日だけでなく、T夫妻の日常の活動性が向上できた。
- ② 利用者や職員との交流、リクエストへの成功体験などから次の演奏会の活動意欲になった。
- ③ 結果、「今後も演奏会を続けたい」ために、健康意識の向上に繋がった。

【写真・チラシ】



T夫(左)はギター、T妻(右)はオカリナを演奏



デイサービスでの演奏



デスクベル



高齢者施設が主催する認知症カフェでも演奏

本事例集の無断転載・転用・複製はご遠慮ください

ご清聴ありがとうございました。

千葉市社会福祉協議会花見川区事務所
第1層生活支援コーディネーター 川邊 真里
電話：043-275-6438